

## 解説版

### 資質・能力の育成を目指した カリキュラム・マネジメントワークシートについて

- このワークシートは、様々な学校種で活用できます。
- このワークシートは、総セのホームページからダウンロードできます。各学校の実態に応じて編集してください。
- 〈年度始め用〉〈年度末用〉は、学校としてまとめたものを記入します。それぞれ週指導計画(週案)等に添付しておき、いつでも目が届くようにしておきます。
- 〈経過記録用〉は、個人で記録を積み重ねていきます。
- 総セ平成31年3月発行 研究〇〇〇号『こらからの時代に求められる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントサポートブック』を参考に御記入ください。

# 資質・能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントワークシート

～学校全体で取り組むことを目指して～

〈年度始め用〉

主に、管理職及び主任層がまとめます。

学校教育目標

児童生徒の実態( 年 月 日)

## STEP 1

### ■ 育成を目指す資質・能力

児童生徒の実態や教師の願い、保護者・地域の要請等を加味して学校として育成すべき資質・能力を設定し、記入します。

## STEP 2

### ■ 資質・能力を発揮した児童生徒の姿(学校全体として)

STEP1 で設定した資質・能力を発揮した児童生徒の具体的な姿を「三つの柱」で整理し、設定し、記入します。

■ 学校全体として資質・能力を発揮した児童生徒の姿を設定し、それを基に育成グループとして設定する方法や、

■ 始めから育成グループとして資質・能力を発揮した児童生徒の姿を設定する方法が考えられます。

例は設定した資質・能力が「コミュニケーション能力」、育成グループが小学校・高学年として設定した場です。

### ■ 資質・能力を発揮した児童生徒の姿 (育成グループ(例 学年や教科等)として)

例

学びに向かう力、人間性等

友だちの考えを受け入れ、集団としての考えを発展させることができる。

知識及び技能

目的や意図が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話すことができる。

思考力、判断力、表現力等

相手が分かるように自分の考えを伝えることができる。

## STEP 3

### ■ 手立て(学校全体・育成グループとして)

<p>例</p> <p>学校全体として</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「問い」の工夫</li> <li>○ 思考スキルに応じた思考ツールの活用</li> <li>○ リフレクションの設定</li> </ul>
<p>授業改善の視点</p> <p>育成グループ(学年や教科等)として</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 設定した資質・能力を育成するための「手立て」を教科等横断的な視点で設定します。             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業改善の視点には、学校や育成グループとして設定した共通の「手立て」を記入します。</li> <li>■ その他には、授業以外で講じる「手立て」を記入します。</li> </ul> </li> <li>○ 例は校種が小学校で、設定した資質・能力が「コミュニケーション能力」です。中学校や高等学校であれば、教科や学年で統一した手立てを設定することが考えられます。</li> </ul>
<p>その他部活動や行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「挨拶」の励行</li> <li>○ 各行事で「伝え合う活動」を実施</li> <li>○</li> </ul>

# STEP 4

## ■実践の振り返り

※振り返りの視点：「手立ての有効性」や「設定した資質・能力の育成状況」について

〈経過記録用〉  
個人(全教職員)が記録します。

日	手立て(STEP 3) [どこで、どのように]	実践してみて(反省、今後に生かすこと等)
<p>個人で記録を継続して記入します。 学校や育成グループで設定した手立て(STEP3)の有効性について、設定した資質・能力の育成状況と関連付けて記入します。 視点は、「手立ての有効性」及び「設定した資質・能力の育成状況」です。 この視点が、〈年度末用〉資料の基礎となります。</p>		
例		
6/23	「問い」の工夫	<p>○「□□□□□□」の単元で、資質・能力の「三つの柱」を意識した「問い」を設定した。設定した「問い」は、児童の興味を大変引くことができた。まとめの発表会では様々な考えがでた。一方で、数名うまくまとめられない児童がいた。今後は個別指導を工夫していく。</p> <p>資質・能力の育成状況は、4月と比べると、少しは育成できてきたように感じる。日々の授業が大切なので、今後も「問い」を工夫し、1時間に少なくとも1回はコミュニケーション活動を入れていく。また個人差があるので、個別指導を徹底していく。</p>

日	手立て(STEP 3) [どこで、どのように]	実践してみて(反省、今後に生かすこと等)

## ■今年度の振り返り

今年度の実践を総括し、今年度の振り返りを記入します。  
※視点は、「手立ての有効性」及び「設定した資質・能力の育成状況」です。



## ■次年度に向けて

今年度の実践を振り返り、次年度に向けて記入します。  
※視点は、「手立て」及び「次年度、育成を目指す資質・能力」です。

**STEP 4**

■各育成グループの振り返りと次年度に向けて

振り返りの視点：「手立ての有効性」や「設定した資質・能力の育成状況」について

〈年度末用〉

主に、管理職及び主任層がまとめます。

( )グループ
育成グループとして、今年度の実践を振り返り、次年度に向けて記入します。 個人で記録した〈経過記録〉を総括して記入します。 ※視点は、「手立ての有効性」及び「設定した資質・能力の育成状況」です。
( )グループ
( )グループ
( )グループ
( )グループ

■学校評価(育成を目指す資質・能力について)の振り返り

学校評価に示した「育成を目指す資質・能力」の結果について、振り返り、次年度に向けて記入します。

■学校全体としての振り返りと次年度に向けて

学校全体として、今年度の実践を振り返り、次年度に向けて記入します。  
育成グループ及び学校評価でまとめものを総括して記入します。  
※視点は、「手立ての有効性」及び「設定した資質・能力の育成状況」のです。

児童生徒の実態( 年 月 日)

全体を総じて、現在の児童生徒の実態及び課題を記入します。

**STEP 1**

■次年度、育成を目指す資質・能力

全体を総じて、次年度育成を目指す資質・能力を記入します。

学校教育目標

